

【附属機関名称】会議概要

会 議 名	平成30年度 第3回 足立区地域包括ケアシステム推進会議		
事 務 局	福祉部地域包括ケア推進課		
開催年月日	平成30年11月16日(金)		
開催時間	午前11時00分 ~ 午前11時51分		
開催場所	足立区役所 8階 特別会議室		
出席者	諏訪 徹 会長	酒井 雅男 副会長	早川 貴美子 氏 (高田委員 代理)
	鈴木 康大 委員	小川 勉 委員	鵜沢 隆 委員
	浅野 麻由美 委員	倉澤 知子 委員	伊藤 俊浩 委員
	田島 多美子 委員	鮎川 博司 氏 (風祭委員 代理)	大竹 吉男 委員
	中島 毅 委員	中村 輝夫 委員	茂出木 直美 委員
	大高 秀明 委員	結城 宣博 委員	中村 明慶 委員
	今井 伸幸 委員	服部 仁 委員	
欠席者	太田 貞司 委員	山中 崇 委員	永田 久美子 委員
	太田 重久 委員	久松 正美 委員	花田 豊實 委員
	茂木 繁 委員	松井 敏史 委員	足立 義夫 委員
	秋生 修一郎 委員	須藤 純二 委員	高田 潤 委員
	風祭 富夫 委員		
会議次第	別紙のとおり		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議次第</li> <li>・委員名簿</li> <li>・足立区地域包括ケアシステムビジョンについて(答申)</li> </ul>		
そ の 他			

○澤田地域包括ケア推進課事業調整係長皆様、こんにちは。定刻でございますので、ただいまより足立区地域包括ケアシステム推進会議を開催させていただきます。

本日はお忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。本日の司会は地域包括ケア推進課の澤田が担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、傍聴者の皆様にお願いがございます。会場内でのビデオカメラ、カメラ、携帯電話等のご使用はお控えください。ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

次に、議事に入る前に事務局より報告させていただきます。

当会議の委員の任期は、平成30年9月29日をもって3年間の任期が満了となりましたが、足立区地域包括ケアシステムビジョンの策定途中であるため、委員の皆様には委員の継続と会長、副会長のご留任の同意についてお願いしたところ、多くの方からご同意をいただくことができました。

なお、継続が困難な委員につきましては、新たに後任の方をご推薦いただき、本日委嘱をさせていただきます。

それでは、ただいまより新たに就任となる委員の方へ委嘱状を交付いたします。

議事の関係上、交付は交代のあった委員のみとさせていただきます。ご留任いただきました委員の皆様への委嘱状、任命書につきましては、誠に恐縮ですが、机上で交付させていただいております。また、本来であれば区長から交付するところですが、他の公務の関係で福祉部長が代理いたします。

それでは、新たにご就任いただく委員をご紹介します。お名前を読み上げますので、その場でご起立いただき、委嘱状の

交付をお願いいたします。

足立区老人クラブ連合会、中村輝夫様。

○中村福祉部長 委嘱状。中村輝夫様。足立区地域包括ケアシステム推進会議委員を委嘱いたします。任期、平成30年9月30日から2021年9月29日まで。平成30年9月30日。足立区長近藤やよい。  
○中村委員 よろしく申し上げます。  
○澤田地域包括ケア推進課事業調整係長 足立区薬剤師会鈴木康大様。

○中村福祉部長 委嘱状。鈴木康大様。どうぞよろしく申し上げます。

○澤田地域包括ケア推進課事業調整係長 ありがとうございます。本日からどうぞよろしく申し上げます。

それでは、まず中村委員から一言よろしいでしょうか。

○中村委員 今まで村上連合会長が来ておりましたが、村上連合会長が首都東京の東老連の会長になりまして、とにかく忙しくてどうしようもないということで「おまえ、代われ」ということなので、どこまでできるかわかりませんが、後任として務めさせていただきます。村上同様、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

○澤田地域包括ケア推進課事業調整係長 ありがとうございます。

続きまして、鈴木委員、お願いいたします。

○鈴木委員 年度途中からですが、お世話になります鈴木康大と申します。そうそうたる面々の中、とても若輩者で、この場にいさせていただくのは非常に申し訳ないと思っていますのですが、これからよろしくお願いいたします。

○澤田地域包括ケア推進課事業調整係長 ありがとうございます。

続きまして、本日席上に配付させていた  
だいた資料を確認させていただきます。

本日の「会議次第」でございます。

次に「委員名簿」でございます。

次に「足立区地域包括ケアシステムビジ  
ョンについて（答申）」でございます。委  
員の皆様には事前に送付させていただいた  
ビジョン答申案がございましたが、本日の  
ものはカラー刷りとなっております。

以上でございます。不足等ございましたら  
事務局にお声かけをお願いいたします。  
よろしいでしょうか。

続きまして、この会議は足立区地域包括  
ケアシステム推進会議条例第7条によりま  
して委員の過半数の出席により成立いた  
します。現在、過半数に達しております、  
この会議が成立いたしますことをご報告申  
し上げます。

なお、この会議の会議録は公開すること  
となっておりますので、記録の関係上、ご  
発言の前にはお名前をお願いいたします。  
また、マイクのスイッチは緑色のランプの  
点灯及びマイクの先端が赤く光っている状  
態でお話いただけます。

なお、一度に使用できる台数に限りがご  
ざいますので、お話しの際はスイッチを切  
っていただくようお願いいたします。

なお、本日の予定でございますが、11  
時45分にビジョンの答申、閉会が正午と  
考えております。会議の進行にご協力いた  
だけますよう、よろしくお願いいたしま  
す。

それでは諏訪会長、開会のごあいさつを  
よろしく申し上げます。

○諏訪会長 開会ということでございま  
すが、今日から新しい委員も迎えまして、任  
期は3年間ということでございます。これ  
まで検討してまいりましたが、引き続き推

進の方をどう具体化していくか、皆様方  
にお知恵をいただきながら進めたいと思  
います。よろしく申し上げます。

それでは着座にて失礼します。今日は  
ビジョンについて最終の審議ということで、  
この後区長への答申を予定しているとい  
うことでございます。円滑に議事を運営  
していきたいと思っておりますので、よろ  
しくお願いいたします。

それでは、本来なら副会長からもごあ  
いさつをいただきたいと思っております  
が、審議に入らせていただきたいと思  
います。

それでは、まず、最初にビジョンのご  
説明をお願いします。

○伊東高齢福祉課長 高齢福祉課長の伊  
東でございます。地域包括ケア計画担  
当課長も兼務しておりますので、私  
からビジョンについてご説明をさ  
せていただきます。

資料は本日席上にお配りさせていただきました  
「足立区地域包括ケアシステムビジ  
ョンについて」というものでございま  
す。こちらは案でございますが、こちら  
もご覧になりながらお願いします。

まず前回、8月28日の推進会議から3  
カ月ほど経過をしてございますが、その  
ときにお示したビジョン案からの変更  
点を中心に説明をさせていただきます。

大変申しわけございませんが、事前  
に委員の皆様にご送付させていただ  
いた資料と本日カラーで席上に配付  
させていただきました資料の内容が一部  
だけ異なっておりますので、本日  
のカラー版の資料の方をご覧  
いただきたいと思っております。  
よろしく申し上げます。

まず、ビジョン案ですが、前回は  
そのタイトル、テーマについてご  
議論をいただきました。前回の  
推進会議においてはタイトル案  
を4つ提示させていただきました。そ

の4つは、1案として「みんなで紡ぐ ずっと暮らせる足立(まち)」。「足立」と書いて「まち」です。2案として「みんなで創ろう つながりの輪 支え合いの足立(まち)」。「足立」と書いて「まち」です。3案として「つむぐつながり、育む安心、笑顔の将来(みらい)」、4案として「足立(まち) ぐるみでつなぐ みんなの毎日 ずっとの暮らし」という4案でございました。前回の推進会議では、どの案にするかという合意までは至りませんでした。また「紡ぐ」という言葉は言いづらいのではないかというようなご意見をいただいております。そこで正副会長を交えて事務局でも再考をさせていただきました。

このビジョン全体を通じてなのですが、人と人がつながり、そして担い手の方々同士もつながり、一丸となって高齢者の方々を支えていく、取り組みも前に進めていく、そうした状態が実現されれば未来は明るい足立区になって、そして当事者の方々が笑顔になれる、そういったものをビジョン、タイトルとして表現できればいいのではないかなというふうに考えました。

そして前回提案をさせていただいた案の中に第3案として「つむぐつながり、育む安心、笑顔の将来(みらい)」がございました。実は、今私が申し上げたことは、この案が一番ビジョンを端的にあらわしており、フレーズとしてもリズム感があるのではないかというふうに思いました。しかし、中で「紡ぐ」という言葉が言い難いというご意見もございましたので、「紡ぐつながり」という部分を「つながり」という言葉に変更いたしまして、本日の答申案の表紙に記載させていただきました「つながり 育む安心 笑顔の将来(みらい)」というふうにさせていただきました。

た。そちらを案として提示をさせていただいてございます。

次に表紙を1枚おめくりいただきたいと思えます。

こちらにビジョンの体系図がございませぬ。こちらでも変更した部分がございます。左上の部分です。ピンク色の「A自立期」と書いてあるものの上です。こちらに「心身状態」という記載がございます。前回お示しした体系図の中では、こちらは「身体状態」という言葉になっていました。それぞれの自立期、要支援・軽度期、中重度・終末期においては体の状態だけを指すのではなくて、心や認知の状態もあらわす必要があるのではないかというご意見を正副会長からいただきました。ご意見を踏まえまして、こちらを「心身状態」という言葉に修正をさせていただいております。

また、この修正に合わせて体系図の一番下、欄外の部分になります。心身状態の説明書き、要支援・軽度期、中重度・終末期のところの説明書きをそれぞれの内容、前回は「程度の身体状態」という言葉になっていたのですが、**「程度の身体・認知・障がいの状態」という表現に修正をさせていただきました。**

そして、この修正に合わせて、そのほかの本文中にも出てくる「身体状態」とあった言葉については、特に体のことに特化した記述を除いては原則的に「身体状態」から「心身状態」というような形の修正をさせていただきます。

次が最後の大きな修正点になるのですが、資料編の部分でございませぬ。本日席上にお配りしたのですが、45ページ以降が資料編になっています。そして8月28日のときにお示しをした資料編には、

委員の皆様方にワークショップ等でいただいた意見集を入れてございました。その意見集の部分について正副会長とも取り扱いについてご相談をさせていただいたところ、意見集はあくまでもビジョン策定過程での意見であって、厳密にしっかりと整理しているものではないこと。よって今までの議論の結論を申し伝える答申とは別のものでして捉えたほうが望ましいのではというようなご意見もいただきました。よって、今回の資料、答申案の中からは割愛してございます。

ただ、事務局といたしましては、ビジョンの答申という中には含めないとしても、策定過程でのご意見というのは今後の地域包括ケアシステムの事業を検討する上でも貴重な資料であるというふうには考えておりますので、今後の推進会議での検討報告資料やこれまでの振り返り資料として活用はさせていただきたいというふうに考えてございます。

本日席上にお配りしましたビジョンの修正点についての説明は以上になります。本日はビジョン、テーマについてもあわせてご賛同いただき、ご答申をいただければというふうに考えております。よろしくお願いたします。

○諏訪会長 ありがとうございます。前回の議論からの大きな修正点をご説明いただきました。また事前にお送りをしてご意見を伺っているというふうに承知をしております。

それでは、まず、最初に、ちょっと決めることを決めないと。タイトルを決めさせていただきたいと思います。前回こういう議論があったというお話を今ご説明いただきまして、最終的には「つながりで 育む 安心 笑顔の将来 (みらい)」という表紙

に書かれてある言葉でどうかという提案でございます。これについてはいかがでございましょうか。

○中村委員 じゃあ、せっかくですから。老人クラブをやっていると、やはりかなりお年寄りが孤立化しつつあるのです。それで老人クラブへ入って一緒に人とつながって誰かのために何かをやるよというようなことを誘っているのですけれども、ちょっとここまで話し合っているのかどうかわかりませんが、誘いに行くと「住区へ行くとしたら、あなたのところは会費を取るから」と、こう言われるんですよ。でも、月100円か200円のこと、こんなの1年やっているといろいろな勉強になる。「講演会もあるし、90歳の人だって来ているグラウンドグラフもあるし、そういう形でつながっていけば、あなた、将来のためにいいですよ」と言うのですけれども、残念ながら、どうもお金のことが問題になるみたいで、なかなか増えないのです。

それで、このつながりというのはすごく大事であると。企業へ勤めていると定年になるとおしまいでしょう。だから私は「企業定年、地域は一生」と、こう言っているんですよ。ですけれども、なかなか入ってくれない。これは老人クラブ何十年来の懸案ですね。本当にもうちょっとこの辺で、前提案したことがあるのですけれども、住区センターを使うのなら地域の老人クラブへ入っている証拠でもあったらただで使えるよと。極論ですよ、これ。こういうような形をしないと、どんどんつながっていかないかなというふうには私は考えております。以上です。

○諏訪会長 ありがとうございます。つながりが大事だという観点からご発言をい

いただきました。ありがとうございます。

そのほか、まずはタイトルについてはよろしいでしょうか。

それではタイトルはこちらの提案どおりという形で決めさせていただきたいと思えます。

それでは、あとはビジョンの本体のほうでございますね。これまで議論を重ねてまいりましたけれども、せっかく、今日お集まりの方でございますので、このビジョン本体の意見もさることながら、ぜひ今後こういうことが必要なのではないかと、少しご発言をいただけると、先ほど老人クラブの立場からご発言いただきましたけれども、いただければありがたいですけれども、どうでしょうか。

○中村委員 もう一つ、今日出席させて時間が許せば発言させていただけないかと思っていたのですけれども、地域ぐるみ、これは非常に高齢者としてはありがたいと思えます。地域ぐるみというのは私、好きなのですよ。すべてまとめるということがね。

それで前回出ていませんので何とも言えないのですが、ここに地域というからには障がいを持っている方もいるわけですよ。この方たちは名簿には出ていないのですけれども、この辺は別として、とにかく在宅介護が主眼だと思うのです。そうすると、環境整備をちゃんとしていただかないと、せっかくいいシステムも生きないじゃないかと。介護する人、される人、両方に泣きを見ないようなシステムにさせていただければ私としては幸いかなというふうに思っています。これだけは言いたいと思って、今日、出席したのです。どうも失礼いたしました。

○諏訪会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

医師会の立場でもしありましたら。

○早川委員 ありがとうございます。今日は高田医師会長の代理で出席しました。副会長の早川です。

このケアシステムのこの資料の何ページだったか、カラーのこのページですね。このページはとてもよくできているなというふうに思っています。医師会としては心身状態のピンクの自立期、黄緑色のB、要支援・軽度期、Cの中重度・終末期、これの中のA-2、B-2、C-2、医療・介護のところで私たちはお世話になる、お手伝いさせていただくことになると思いますが、特に今の医師会ではCの、いわゆる往診も含めた、往診が一体どこでやっているのかもわからない、それから介護の方たちから言うと、お医者さんはとてもハードルが高くていろいろと相談したいことはたくさんあるのだけれども、相談しにくいという現実のお話も出ておりますので、その溝を埋めるべく多職種連携などを通して顔が見える関係を特に今は構築しているところでございます。以上です。

○諏訪会長 ありがとうございます。

地域包括ケアシステムは大変広い領域にわたって、いろいろな人がいろいろな形でかかわるということなので、これをどうわかりやすくするかということが、もしここでまず一步踏み出せたとしたらよかったかなというふうに私も思っています。

そのほかいかがでしょうか。

○鈴木委員 薬剤師会の立場からお伝えと  
いうか、今後考えていることというか、ビジョンなのですが、先ほど早川先生のおっしゃったとおり、我々もA-2とB-2で、特にA-2の隣、右側の「専門機関とのつながり」、⑥番のほうとB-2の⑩番

「医療と介護の連携促進」、このあたりに我々は非常に力を入れておまして、コンビニより多いというふうに悪い意味で最近揶揄される薬局ではありますが、その数をよい方向に利用して、地域の孤立した方々をなるべくゼロにしようということで、あと孤立以外にも夫婦とかでお住まいですが、相談先がわからないという方々が非常に多いので、そのあたりを地域包括支援センターさんに連絡したりとか担当医の先生に相談したりとかで、そのように潤滑油みたいな方向性で今、薬剤師会は動いておりますので、今後もこの地域包括ケアシステム構築に当たっては、その姿勢を徹底しようかと思っているところです。

○諏訪会長 足立区は大変広いところですし、地域包括ケア、本当はきめ細かく地域の方で網の目みたいな形に作っていかねばいけないのですが、どこかで、今後そういう絵が出てくるのではないかと思うのですが、そういうときにたくさんある資源はすごく大事なので、ぜひ、これからよろしくお願いします。

そのほかいかがでしょうか。

今回、だいぶ、自立期のところでは就労なども大事だという議論もあったのですが、シルバーのお立場でいかがでしょうか。

○中島委員 今、見させていただいてはいますが、文字の大きさとかはこれでいいと思います。このぐらいの大きさで。ただ、イラストが今後どういうものを入れるか、要はこれが教本になるというか、何かあったら見ていきましょうという本になると思います。だから、その意味ではイラストはどんなものが入るのかなと思いつつ、今、楽しみにしております。やはりなじんでいただくという意味で、あまりテキスト

だよ、という意味ではなくて、何かあったらお助けになるのだよ、というぐらいの位置づけにさせていただければいいのかなと思って見ております。

表紙の後の「主な取り組み」のところ、字が小さいですね。これはまた虫メガネが付属でつくのかなと思いつつ見ておったのですが、そのうち改善されると。イメージとしてはそういうことで、全体的に非常に立派にできていると思います。ありがとうございます。

○諏訪会長 ありがとうございます。大事なことをご指摘いただいて、やはり広報にどういうふうに使って、大きな文字でどうわかりやすく、区は何をしたいのだ、住民の人とどうしたいのだ、ということがわかるようにしなければいけないと。本当に字は大きくないといけないう。私もつらいので、そう思います。ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

では、いかがでしょうか。かなり丁寧に事務局のほうで団体のご意見を伺ったり修正プロセスを重ねたりということをしてくださってきていますので、このビジョンの案はこれで了解ということにさせていただいてよろしいでしょうか。

(結構です。という委員あり。)

ありがとうございます。

それでは、これから答申ということで少しセレモニー的になるということでございますが、その前に酒井副会長から答申に当たっての感想をお願いします。

○酒井副会長 今回ビジョンができて感無量です。ただ、このビジョンはできただけでは当然何も意味がなくて、手にとっただけでみんながいつも見るというものではなくちゃいけないという鋭いご指摘もいた

だきまして、このできたビジョンは手にとる方が、いろんな方が見やすいような形にちょっと修正したりして作ってもいいのかな、というふうに思った次第です。

また、一昨日、介護保険・障がい福祉専門部会がありました。そこで出てきたのは、高齢者の方をターゲットにした地域でのビジョンというものは検討されていますが、障がい者については置いてきぼりじゃないのですか、というような感じも見受けられました。これは区のほうで、まずは高齢者福祉分野で地域包括ケアというものをしっかり形づくって、それを障がい者福祉で道を作っていくというお話がありました。今後はそういった意味で、まだ道半ばであるということを取り組んでいただきたいと思いますというふうに思った次第です。

○諏訪会長 ありがとうございます。

最後に私から感想と意義とこれからの課題ということで申し上げたいと思います。

1つは、地域包括ケアシステムを作っていくときには、やはり行政と事業者の皆さん、専門職の皆さん、それから当然、住民の方々との協働が非常に大事だということで、このビジョンができたということで、それを作る過程からその第一歩を踏み出したのかなというふうに思っています。

ビジョンを作っていく過程でワークショップということもさせていただきましたし、その段階で職能団体の方、それから住民団体の皆様のご意見を伺うことができました。また地域包括支援センター、それから社協、生活支援コーディネーターの皆さんもそこに参加をしていただきました。これらの人たちは、普段、地場で本当に地域づくりを実践なさっていらっしゃる皆さんということで、そういうことができたということが非常に作っていく過程で意義があ

ったのかなということです。

厚労省は、地域包括ケアシステムについて規範的統合が大事だと。何でそんな難しい言葉を使うのかと思いますけれども、目標の共有ですよね。協働していくためには目標を共有しなければいけないということなので、まず、1つの共有目標ができたのかなということは大きな一歩であったというふうに思います。

それから先ほどの最初のビジョンの図ですね。字が小さくてわかりにくいということですが、体系図をなるべく示したいということで、地域包括ケアシステムは、医療、介護、それから介護予防、生活支援、そして住宅、それから認知症の取り組みと、何か非常に複雑で幅広くて、それぞれ専門で議論していると全体像がわからなくなってしまふ、というところがどうしてもあって、この会議も部会に分かれて議論はしているわけですが、そのとき、やはりそもそもどこに向かっているのかと。私はA-2だとかC-2だとか、今どの業務だということができるようになると少し全体がお互い見えるかなというのは、その一歩のたたき台ができたということも意味があったかなというふうに考えております。

それから最後は、これからの課題ということですね。ということなのだけでも、一定の意義はあるのだけれども、このビジョンができたからといって世の中が変わるわけじゃないということも思っておりまして、実際にこれをどう進めるか、そのときにどういう仕組みとか検討の場を作りながら進めていくのかということこれから考えていく。介護保険の仕組みの中で、やはり足立区は大変大きい。人口も70万人弱、それから面積も比較的広い区だという

ことですので、実際は、地域、地域で、この地区をどうするのだというふうを考えていかないと回らないわけですね。そこで出てきた課題がだんだんと集約をされていって区の政策としてどう進めるかという形に発展していかないといけない、そういうボトムアップの仕組みを、今もそういう仕組みはあるわけですが、これもいろいろ分かれているというところがございますので、それもどうしていくのか、そういったあたり、これからまた皆様のお知恵をいただきながら、一步一步、進めていきたいというふうに思っております。

ビジョン、かなり長い間議論をいたしました。検討会も多く重ねてまいりました。いろいろな形でご協力をいただきまして、ありがとうございました。

では、ここで終わらせていただきたいと思っておりますので、事務局のほうにお返しします。

○伊東高齢福祉課長 諏訪会長、ありがとうございました。

すみません、事務局を代表するわけではないのですが、私から一言発言させていただきます。

ビジョンの検討については、今年の8月31日の推進会議から本日まで、約1年3カ月にわたりまして、ご検討いただきました。本当にありがとうございました。

今、会長がおっしゃったとおり、また先ほど各委員さんの発言をいただきましたとおり、ビジョンができて終わりではなくて、これからさらにどう進めていくかが大変重要であるというふうに思っております。

そして一方、今まで何も取り組んでいなかったということでは当然なくて、医師会さんであったり、介護の各事業者さんであ

ったり区民の皆さんや各種団体さんだったり、それぞれの立場の方々が、今までも地域包括ケアシステムのことを進めてきていただいたと思っています。その取り組みを今後さらに加速させていく、発展させていくことが大事だというふうにも思っていますので、引き続き、我々、区も微力ながら皆様方のご支援をさせていただきたい、というふうに思っていますので、引き続き、よろしく申し上げます。今までご意見、本当にありがとうございました。

○澤田地域包括ケア推進課事業調整係長  
ありがとうございました。

この後、11時45分に区長が会場に入りまして諏訪会長から答申となります。ここで短いのですが、5分間だけ休憩を挟ませていただきたいと思います。11時40分にはご着席いただくようお願い申し上げます。

それでは、5分間休憩させていただきます。

11時35分（休憩）

11時40分（再開）

○澤田地域包括ケア推進課事業調整係長  
それでは、これより諏訪会長から近藤区長に「足立区地域包括ケアシステムビジョンについて」を答申いたします。よろしくお願いいたします。

○諏訪会長 答申書。足立区長 近藤やよい様。平成29年8月31日に諮問された

「（仮称）足立区地域包括ケアシステムビジョン」につきましては、地域包括ケアシステム推進会議において、区内に暮らす高齢者の理想的な将来像や、その実現のための取り組みについて幅広く区民、事業者の方々の意見を聴いて審議してまいりました。このたび、別添のとおり取りまとめましたので、答申いたします。

本ビジョンに掲げられた取り組みを、区民・地域、専門機関、区が一丸となって推進していただき、高齢者への支援・ケアをより強固なものにしてくださいませようお願いいたします。平成30年11月16日。足立区地域包括ケアシステム推進会議 会長 諏訪徹。

(会長から区長へ答申書交付)

○澤田地域包括ケア推進課事業調整係長  
それでは写真を撮らせていただきますので、そのまま少々お願いいたします。

(答申書交付・受領の様子を写真撮影)  
ありがとうございました。

それでは近藤区長からごあいさつを申し上げます。よろしくをお願いいたします。

○近藤区長 昨年の8月31日の答申以来、1年以上の長きにわたりまして、それぞれのお立場で本当に熱心にご審議いただきまして、今日の答申書を頂戴いたしました。皆様方に投げたボールが今日、私どもに投げ返ってきたということでございます。本当に足立区版ならではの、様々な資源を折り込んでいただきまして、足立区らしさの出た答申を頂戴したものと認識しております。

ただ、あくまでも今回のビジョンは絵に描いた餅でございますので、これをいかに現実のものに落とし込んでいくか、その責任が今、私どもに寄せられているということで、ひしひしとその責任の重さ、厳しさを実感するところでございます。庁内または庁外、民間の皆様方、さまざまな方々を巻き込むことによりまして、誰もが安心して、この足立区だからこそ人生を生き生きと全うすることができたと、最期の瞬間までそう思っていたいただけるようなまちづくりを進めてまいりたいと思っております。

それぞれの事業の展開、施策の展開に当

たりましては、今日、この席にお越しの皆様方のご協力なくしては成り立ちませんので、本日で終わりということではなく、今日、また新たなスタートというふうを受け止めていただきまして、今後ともご指導・ご協力のほどをよろしくをお願い申し上げます。

諏訪会長をはじめ、委員の皆様方には本当に長い間ご苦勞をおかけいたしました。苦勞したけれども、やっぱりよかったねと、あと何年かたって必ず言っていたように私ども全力を尽くしてまいります。ありがとうございました。(拍手)  
○澤田地域包括ケア推進課事業調整係長 近藤区長、ありがとうございました。

区長はこの後、公務のため退室させていただきます。

(区長退席)

ありがとうございました。

本日はお忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございました。推進会議から区へ答申をいただきましたので、今後は区として足立区地域包括ケアシステムビジョン案のパブリックコメントを実施し、区民の皆様からいただきましたご意見等を集約・検討いたしまして、平成31年3月中に区として決定したいと考えています。決定のご報告やビジョンの今後の進捗管理、ビジョンに合わせた推進会議の体制等を整理する必要もございますので、こうした案件を議題といたしまして、平成31年3月下旬頃に、次回の推進会議を予定してございます。日程等詳細が決まりましたら、改めてお知らせを申し上げます。

以上で本日の推進会議は終了となります。初めに傍聴者の皆様からのご退席をお願いいたします。

(傍聴者退席)

ありがとうございました。

続きまして区から謝礼をお支払いする委員の方で書類がまだお手元にある方は、お帰りの際に事務局へご提出をお願いいたします。

また、お車でおいでの委員の方がいらっしゃいましたら事務局へお申しつけください。駐車券をお渡しいたします。

それでは本日の足立区地域包括ケアシステム推進会議をこれにて閉会させていただきます。本日はありがとうございました。

——了——